

令和 7 年度 高校一般入学試験

総合コース

国語 (50 分／100 点満点)

《受験上の注意点》

1. 監督の先生の指示があるまで、試験問題に手を触れないでください。
2. 問題冊子は 13 ページ、解答用紙は 1 枚あります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
4. 問題冊子・解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。
5. 問題冊子・解答用紙の回収については監督の先生の指示に従ってください。

受験番号	
氏 名	

Kyoei 京都共栄学園高等学校

〔二〕 次の文章をよく読んで以下の設問に答えなさい。出題の都合上、一部原文を改変した箇所があります。(50点)

主人公の藤崎葵は奏社高校の二年生。同級生の飯野と五つ年上の東山の二人から好意を寄せられ、校務員の人生先生に相談していた。いつも学校を出るタイミングなどが合って葵は飯野に好意を抱きかけていたが、そのタイミングのよさは飯野の葵へのストーカー行為の結果であることを知った場面である。

「もう嫌だ……」

言葉が自然と出てきてしまった。

その言葉をつかまえたのは飯野君だった。

「もう嫌だって、何が？」

私は答えられない。答えないままなのに、飯野君はまた距離を詰めてくる。

「嫌だって僕のことじやないよね？」

また一步近づいてくる。

「だって僕はこんなにも藤崎さんのことが好きなのに……！」

①飯野君が手を伸ばしてくる。

その時だった――。

――もうとっくに下校の時間はすぎていますが？」

廊下から声が聞こえた。

その場所に立っていたのは、人生先生だった――。

「なんで、ここに……？」

その言葉に人生先生はすぐに答えた。

「教室の戸締りは、校務員の私の役目なので当たり前のことですよ。それよりもあなたたちはここで何をしているんですか？」

「何をつて……？」

飯野君は上手く答えられない。突然人生先生が姿を現したことには X 食らっているようだった。でも私も同じだった。こんなタイミングで人生先生が現れるなんて思わなかつた。

人生先生は、今度は私だけを見据えて言葉を続ける。

「藤崎さん、あなたは？」

「……」

喉がふさがつてしまつたように声が出ない。

「ちゃんと考へて、あなたの今の気持ちを答えてください」

考へて、答える。あの時と一緒に。私が最初に相談しにいった時。あの時も人生先生はそう言つた。考へなきや。考へることは人間に許された贅沢の一つだから。私はちゃんと考へて、答えを出さなければ――。

「人生先生、助けてください……」

私の中から出てきたのはたつた一つの言葉だった。

その瞬間、人生先生が私と飯野君の間に入ってくれた。

②この状況が気に食わなかつたのは飯野君だつた。

「……邪魔をしないでください、あなたはこの学校の先生じゃないでしょう」

飯野君が人生先生を睨にらみつけて言った。敵意をむき出しにした表情だ。

「ええ、私はこの学校の先生ではありません。でも一人の大人として、助けてくださいと声を上げた子を見過ごす訳にはいきません」

「……なんでだ」

飯野君が声を上げる。

「なんでみんな邪魔するんだ！ なんで藤崎さんも逃げるんだよ！ 僕はこんなに愛しているのに！ 恋と愛の違いがどうかと言つてたよね？ 僕のこの想いこそが本当の愛なのに！」

確かに私は飯野君に質問した。でもあの時飯野君は、愛は安心感とかそういうものだと言つていた。でも今は安心とはかけ離れた状況に私を追い込んでいる。

私はそんなものを愛とは認めたくなかった。上手く説明できなければ、その想いは愛ではないと思った。相手のことを困らせておいて本当の愛だなんて間違つている。

——その時、人生先生が穏やかな声で言つた。

「③あなたの言葉も、その行動も愛ではありませんよ」
「なつ……」

明らかに狼狽えた飯野君に、人生先生は言葉を続ける。

「百歩譲つて④恋に近いところはあるかもしませんがね」

「恋に近い？ 一体何を言つて……？」

「私の考えを説明しましょう」

まるで今から授業を始める先生のような言い方だった。

人生先生は、さつき私には教えてくれなかつた、恋と愛の違いについての考察を話し始めた――。

「私は、恋と愛は主体が違うんだと思ひます」

「恋と愛は主体が、違う……？」

飯野君が戸惑つた声をあげる。でもその言葉に戸惑つたのは、私も一緒だつた。恋と愛は主体が違う、とはどういうことなのだろうか……。

「恋は私が相手のことを知りたい、私が相手に触れたい。私が好きだと言いたい。私がそばにいたい。という風に、『私』が主体になります。かたや愛は、あなたに喜んでもらえることをしたい。あなたのためにできることをしたい。あなたが幸せでいてほしい。という風に、『あなた』が主体になるんです。つまり愛は自分より相手のことを第一に考えて、相手のためを思つて行動することなんだと思います。それに愛は主体が相手にあるからこそ、恋人だけではなく、家族や友人、その他多くの人ではない存在にも向けられるものだと私は思つています」

(中略)

人生先生の言葉は飯野君に向けたはずのものなのに、私にも響いていた。

人生先生は、いつの間にか話に聞き入っていた飯野君に向かって言葉を続ける。

「だからこそ飯野君。あなたのしてきた行動は、決して愛なんかではないと思います。始まりは恋だったのでしょうか。それがやがて愛に変わる可能性もありました。でも途中で道が変わってしまいました。あなたがしてきた自分本位な行動は、恋でも愛でもなく、ただの迷惑行為になってしまったんですね」

「ただの迷惑行為……」

飯野君が、悲しそうに言葉を漏らした。言葉を続けられなかつたのは、その言葉が、胸の奥に突き刺さつてしまつたからだろう。人生先生の言葉で説明がついてしまつたのだ。今までの自分の気持ちと行動の違いに……。

「例えばあなたが今まで読んだ本や観た映画の中には、愛するひとのために自分から □ Y を引いたり、遠くから幸せを願つたりする人はいませんでしたか？ 本当に、愛しているのならそういう形もあります。もちろん、愛する人と結ばれる物語も数多くあることは確かですが……」

「……」

飯野君は、ただじつと俯いて床をみつめていた。

人生先生はゆっくりと飯野君のもとに歩み寄る。

「飯野君。もしも、あなたが今もまだ藤崎さんことを本当に大切に想つているのなら……」

人生先生が、言葉を続ける。

「もうこんな悲しませるようなことはしないでくれませんか？ 藤崎さんのために——」

「……」

ずっと顔を俯けていた飯野君が、小さく首を縦に振つてから、顔をあげた。

「藤崎さん……」

飯野君が、私のことを見つめる。

その眼差しは、いつも私に向けてくれていたような温かさをかすかに帯びたものだつた。

それから今にも泣きだしそうな顔で言葉を続ける。

「好きだった……。それなのに、僕は……」

その先は、言葉にならなかつた。

人生先生が、そつと飯野君に手を差し伸べる。

「人生先生……」

⑤その手を飯野君が受け取つてくれて本当に良かつたと、私は思う——。

(清水晴木『17歳のビオトープ』)

問一 傍線部① 「飯野君が手を伸ばしてくる」とありますが、ここでの飯野君の気持ちとして最も適当と思われるものを次の
中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 藤崎さんを逃がしたくないので藤崎さんの手をつかんでおきたいという気持ち。
イ 自分が伸ばした手を藤崎さんに握つてもらい和解したいという気持ち。
ウ 手を伸ばして自分が大好きな藤崎さんに触れたいという気持ち。
エ 藤崎さんの手に触れて自分の手の温もりを知つてほしいという気持ち。

問二 空欄 に入れるのに最も適當な漢字一字の語を書きなさい。

問三 傍線部② 「この状況」とはどういう状況ですか、最も適當と思われるものを次の 中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 飯野君の思いが藤崎さんにうまく伝わっていない状況。
イ 人生先生が藤崎さんと飯野君の間に割つて入つている状況。
ウ 藤崎さんと人生先生の二人に飯野君が攻められている状況。
エ 教員によつて生徒間の直接のやりとりが邪魔されている状況。

問四 傍線部③「あなたの言葉も、その行動も愛ではありませんよ」とあります、人生先生は飯野君の言葉や行動を、なぜ愛ではないですか、次の空欄を、三十五字以内で埋めなさい。

飯野君の言葉や行動は から。

問五 傍線部④「恋に近い」とあります、人生先生が飯野君の言葉や行動を「恋」と言わないのはどうしてですか、最も適當と思われるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 恋と言ひ切るには、まだまだ相手に対する飯野君の思いが弱いから。

イ 飯野君の行動が、相手にとつて迷惑行為になってしまっているから。

ウ 飯野君の気持ちが強すぎて、むしろ愛と呼ぶべきものだから。

エ 飯野君がまだまだ若すぎて、恋と呼ぶには幼い面を残しているから。

問六 空欄 に入れるのに最も適當な漢字一字の語を書きなさい。

問七 傍線部⑤「その手を飯野君が受け取ってくれて本当に良かつたと、私は思う」とありますが、なぜ「私」は「本当によかつた」と思ったのですか、次の空欄を、二十五字以内で埋めなさい。

人生先生の手を飯野君が受け取ったことは から。

7. 総.国

〔二〕 傍線部の漢字を含むものをア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。(20点)

①出番まで舞台横でタイキする。

ア これで今年もアンタイだ。

イ 桜が咲くキセツになった。

ウ 犯人をタイホする。

エ 旅人をセッタイする。

②窓をコフス。

ア 窓が地震でハソンする。

イ ナダレが起きる。

ウ カイメツ状態になる。

エ ギャンブルでハメツする。

③エタイの知れない人。

ア タイショウ時代に生まれた。

イ 新人をカクトクする。

ウ タイジン恐怖症。

エ エホンを読む。

7. 総.国

④用意シユウトウ。

- ア 頂上にトウタツする。
- イ テントウした自転車。
- ウ 事故のトウジ者になる。
- エ ザットウを歩く。

⑤資金をフやす。

- ア ショクサン興業。
- イ 元金に利子をカサンする。
- ウ ショクサイされた林。
- エ 米の価格がコウトウする。

[三] 次の文章をよく読んで以下の設問に答えなさい。(30点)

① AIの法規制に向けてようやく重い腰を上げたようだが、「議論に数年かける」と言わると、本気で規制するつもりがあるのか、疑いたくなってしまう。政府はAIの様々なリスクを真正面から受け止めるべきだ。② 推進一辺倒だった姿勢を改め、白紙から議論し直すことも選択肢だ。

政府はこれまで、AIの開発を成長の原動力とするため、法規制には消極的で、業界の自主規制に任せようとしてきた。だが、AIには、精巧な偽動画を作り出して犯罪に悪用したり、個人情報を無断で収集したりするリスクがある。

米国は昨年、大統領令で安全保障にかかるAIの開発を規制した。欧州連合(EU)も今月、AIを包括的に規制するAI法を成立させ、2026年中にも加盟国に適用する方針だ。

EUのAI法は、AIから民主主義や□を守ることを目的としている。ネット上の顔写真を自動で収集し、データベース化するAIなどの開発を禁止した。こうした欧米の取り組みを踏まえて、政府は今回、法規制の検討に踏み出した。その方針に基づき、政府のAI戦略会議(座長・松尾豊東大教授)が、規制の具体策を検討するという。

AIが犯罪を助長するかのような回答をしたり、個人情報の漏洩の原因になつたりしないよう、政府が開発企業に安全点検を義務付ける案などが浮上している。

こうした対策を実行すれば、AIの安全性を高めることができることが期待できる。だが、政府は、実際に法規制をするとしても、数年先を見込んでいるとされる。

また、戦略会議は、著作物をどう保護するかについては、法規制の対象に含めないという。

一 8年に改正された著作権法で、AI開発企業は、著作権者の許可なしに著作物をAIに学習させられるようになつていて。

商品開発のために、自らの作品が利用されているクリエイターらは「創作活動に支障が出かねない」と批判している。こうした状態を放置したままでは、人が文章や絵画などを生み出す意欲を失い、芸術や文化が衰退しかねない。政府は、③著作権法の再改正を急ぐべきだ。

そもそもAIの活用を強力に推進してきたAI戦略会議に、規制の議論を任せることが妥当なのか。実効性のある対策を講じるつもりなら、政府は④議論の場を改めることも考えてはどうか。

(読売新聞オンライン二〇二四年五月二十四日)

問一 傍線部①「AIの法規制」とありますが、

一 AIとは何ですか、漢字四文字で答えなさい。

二 具体的にAIのどのようなふるまいを規制しようと考へていますか、四十字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「推進一辺倒」とありますが、なぜ政府は「推進一辺倒」だったのですか、その理由を二十五字以内で説明しなさい。

問三 空欄に入れるのに最も適当と思われる言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国家
- イ 平和
- ウ 人権
- エ 法律

問四 傍線部③「著作権法の再改正」とあります、筆者はどのような内容の法案にすべきだと考えていますか、その法案の内容を四十字以内で述べなさい。

問五 傍線部④「議論の場を改めることも考えてはどうか」とあります、

- 一 「議論の場を改める」とは具体的にどうすることですか、二十字以内で答えなさい。
- 二 なぜ「議論の場を改めることも考えてはどうか」と筆者は提言しているのですか、その理由を七十五字以内で答えなさい。

A horizontal row containing seven empty rectangular boxes, intended for children to draw or write in.

— —

1

問五

問三

問
二

ii

10

1

問

問五

問	問	問	問
四	三	一	—

1

i

1

問
七

問六

2

3

4

5

卷之三

氏名

*採点に使用します

1

--	--

総計

*採点に使用します 6 4 6 2 4 6 2 20 10 6 6 10 6 6 6 100

受 験 番 号	三二																一				氏 名		
	問 五	問 四	問 三	問 二	問 一	① 工	問 七	問 六	問 五	問 四	問 三	問 二	問 一										
	i ii	i	は	な	A	ウ	し	A	ii	i	こ	飯	身	イ	い	考	自	イ	面	ウ			
	な	、	含	著	力	A	る	A	な	し	I	た	I	よ	や	犯	人	②	と	野			
	い	実	め	作	に	I	こ	I	ら	に	開	か	の	う	個	罪	工	ウ	を	君	る	本	
	か	効	ず	物	推	戦	と	戦	な	著	発	つ	開	な	人	を	知		意	が	と	位	
	ら	性	、	の	進	略	。	略	い	作	企	か	発	ふ	情	助	能	③	味	人	い	で	
	。	の	ま	保	し	会		会	。	物	業	ら	を	る	報	長		イ	し	生	う	、	
	あ	た	護	て	議		議		を	は		。	経	ま	の	す			て	先	愛	相	
	る	議	は	き	は		以		A	、			済	い	漏	る	④	い	生	の	手		
	対	論	法	た	A		外		I	著			成	。	洩	か		ア	る	の	本	の	
	策	に	規	会	I		に		に	作			長		の	の				話	質	こ	
	が	数	則	議	の		議		学	權			の		原	よ	⑤			に	か	と	
	期	年	の	で	活		論		習	者			原		因	う		ア		納	ら	を	
	待	か	対	あ	用		を		さ	の			動		に	な			得	ず	第		
	で	か	象	り	を		任		せ	許			力		な	回			し	れ	一		
	き	り	に	、	強		せ		と				と		る	答			た	て	に		

*採点に使用します

30

20 50

総計 100